

社会科の主張

1 教科で育みたい人間像

- 5 グローバル化が進展し、様々な人やものが国境を越えて行き交い、変化の激しい時代を迎えています。多様性が重視される一方、価値観の違いから対立が生まれやすい社会とも言えるでしょう。このような社会において、どのような人間を育んでいけばよいのでしょうか。
- 10 私たちは、社会科を「社会的事象の追求を通して『社会の中でどのように生きるか』について考えをもつ教科」と考えます。「社会」とは、家族や地域、国家、世界など、何らかのつながりをもった人々の集まりを指します。そして、「社会的事象」とは、「社会」における現在や過去の人々の営みのことを指します。このように空間的にも時間的にも様々な社会的事象に触れ、そのよさや問題点、またはそれに携わる様々な人々の考えを吟味しながら、その事象を改めて見つめ直すことを、社会科の授業で実践しています。
- 20 私たちは、このような授業を通して、単に社会に
- 25 20 25 30 35 40
- に適応して生きる人ではなく、「社会を創る人」を育みたいと考えています。そのためには、社会的事象に入り込んで自分の問題としてとらえることが欠かせません。自分にもかかわりがあると実感した子どもたちは、よりよい社会を創るために、自分に何ができるかを考えることでしょう。その際、多様な価値観をもつ人々が集まれば、意見の対立が生まれることが想定されます。簡単に結論を出せない状況であっても、自分以外の人間が重視することや、その人が置かれた立場を理解した上で、すべての人々にとって最善の結論を導こうとすることが大切だと考えます。
- 子どもたちが社会科の授業を通して、「自分にも何かできるかもしれない」「こんな社会にしていきたい」という思いや意思をもち、すべての人にとってよりよい社会にしていこうと行動する「社会を創る人」になっていくことを、私たちは願っています。

2 育みたい人間像に迫るために教科で大切にすべきこと

- 「社会を創る人」を育むために、私たちは、次のことを大切にしています。
- 45
- まず第一に、子どもたちが、**自分の中に社会像を構築すること**です。これは、社会的事象を自分の問題としてとらえ、自分なりに考えをもてるようになることです。そのために、私たちは、社会と自分とのつながりを感じられるような題材を開発したり、題材との出会いを工夫したりしています。このような手だてによって、子どもたちは、「なぜ?」「どうして?」といった疑問を抱くでしょう。子どもたちが解き明かしたいと思う「問い」をもとに追求活動を進めることで、自分なりに社会像を構築していくでしょう。
- 50
- 第二に、それぞれが構築した社会像を伝え合い、**仲間たちと共に社会の姿を創りあげること**です。社会科のおもしろさは、簡単には結論を出すことができないことについて、仲間とかかわりながら考えていくところにあると、私たちは考えます。
- 60
- その際に大切になるのは、根拠をもとに考えを伝え合うことです。また、そのような考えに至った道筋や意図を伝え合うことも必要でしょう。な
- 70
- ぜなら、「よりよい社会の姿」のとらえ方は立場や考え方によって異なり、こうした様々な解釈の仕方や多様な価値観に気づきながら、「すべての人にとって最善の社会の姿」を創りあげていくことが社会科における学び（文化）であるのとらえているからです。
- 75
- したがって、視点の異なる他者との交流を意図的に設け、考え方の違いや解釈のズレに焦点を当てて、授業を構想する必要があります。そのようにすることで、子どもたちは多面的・多角的に社会的事象をとらえ直し、実際の社会に近い姿を創りあげていくでしょう。
- 80
- 以上のことから、社会科の授業は、すべての子どもたちが他者の考えに触発されて自分の考えを深めていく過程そのものであると言えます。このような経験を積み重ねることによって、子どもたちは自然と『思考力』を育んでいくでしょう。
- 子どもたちが社会とのつながりを感じ、社会科のおもしろさを味わいながら社会の姿を創っていくよう、授業実践を重ねていきます。

